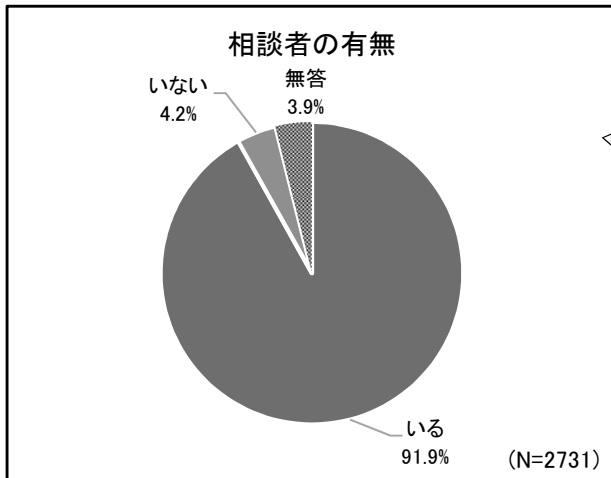


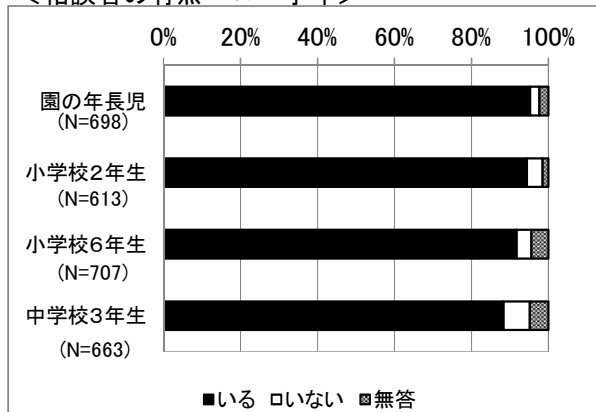
Ⅲ 家庭教育支援に関すること

問19 あなたは、家庭教育（子育て）に関することについて、相談できる人はいますか。

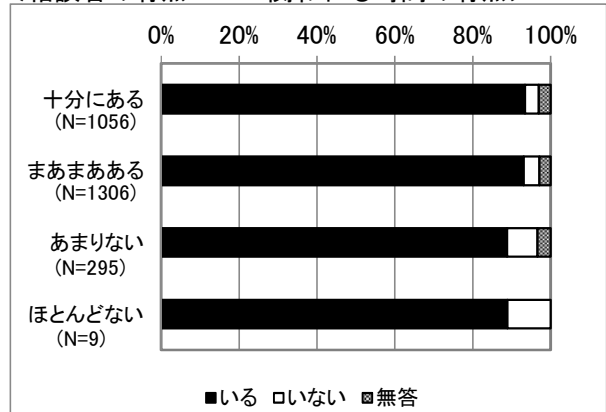


・91.9%の保護者が、家庭教育に関することについて相談できる人がいると回答している。

<相談者の有無 × 学年>

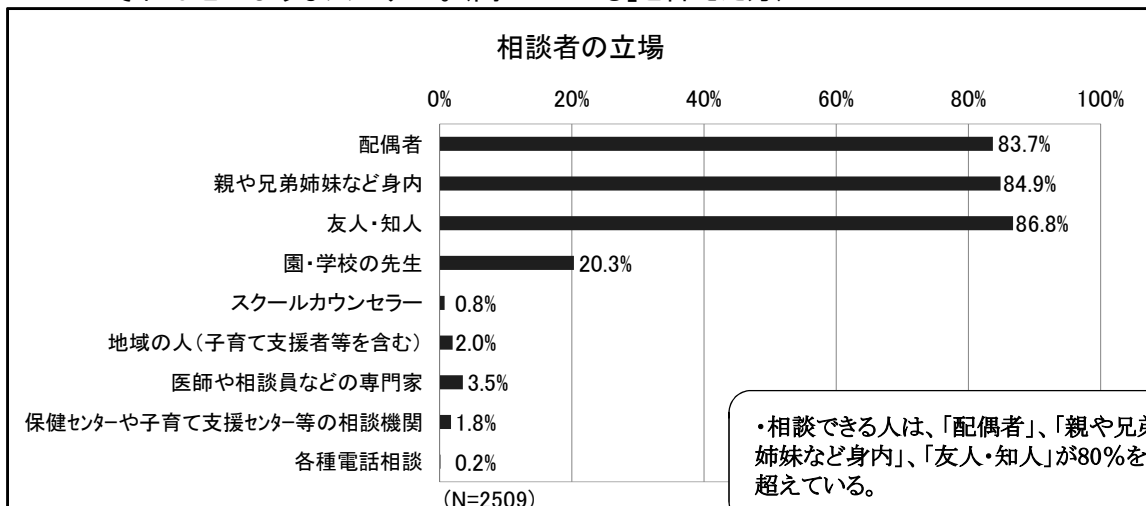


<相談者の有無 × 関われる時間の有無>



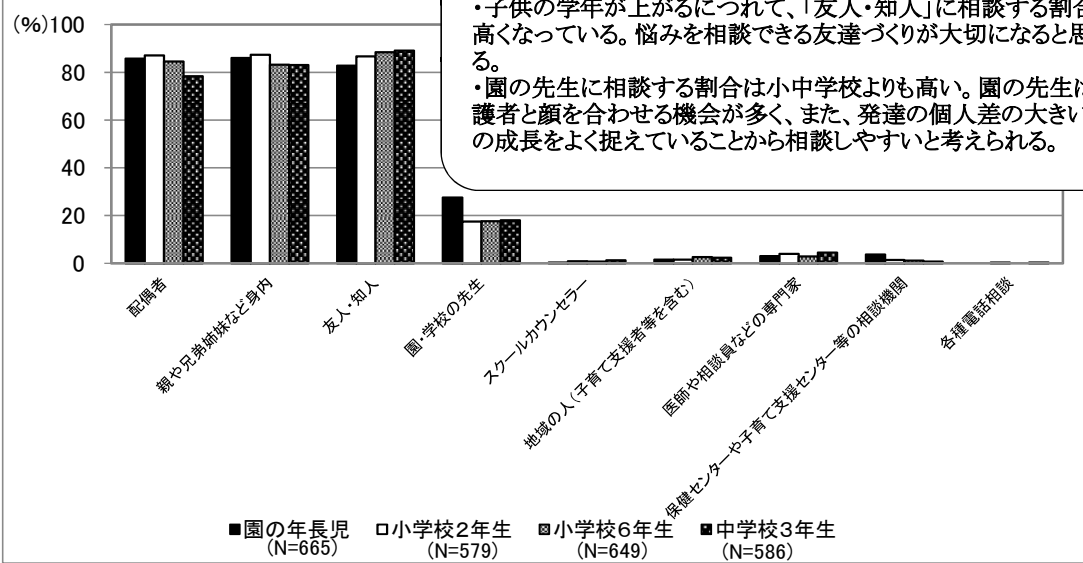
- ・子供の学年が上がるにつれて、相談者がいない保護者の割合が増えている。
- ・子供と関われる時間がない保護者は、時間がある保護者に比べて相談者がいない割合が高い。今後も就労する保護者が増えることが予想されるため、仕事のことで余裕がなくなり、子供との接点が少なくなることが懸念される。

問20～22 それはどのような人ですか。(問19で「いる」と答えた方)



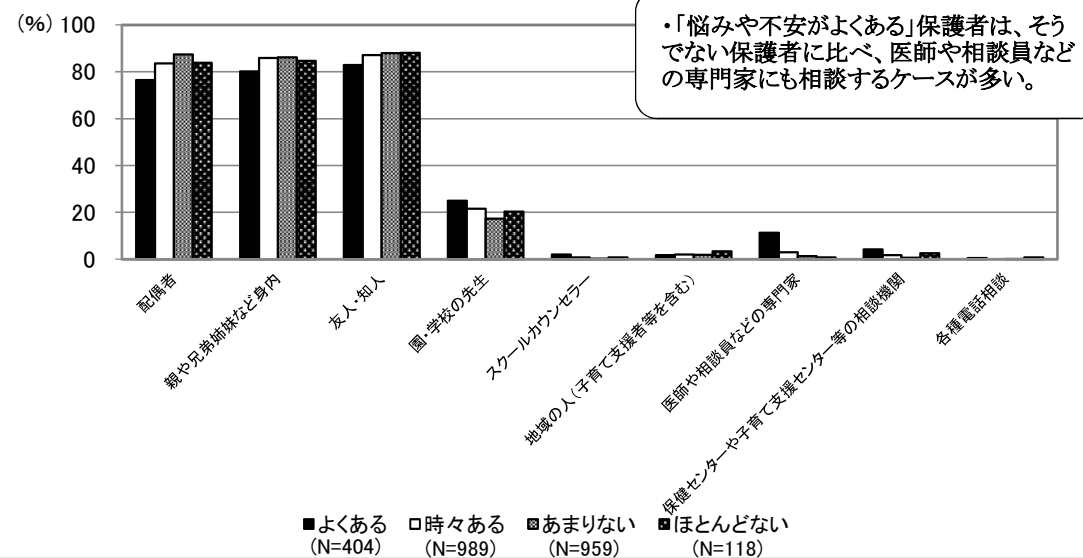
・相談できる人は、「配偶者」、「親や兄弟姉妹など身内」、「友人・知人」が80%を超えている。

<相談者の立場 × 学年>



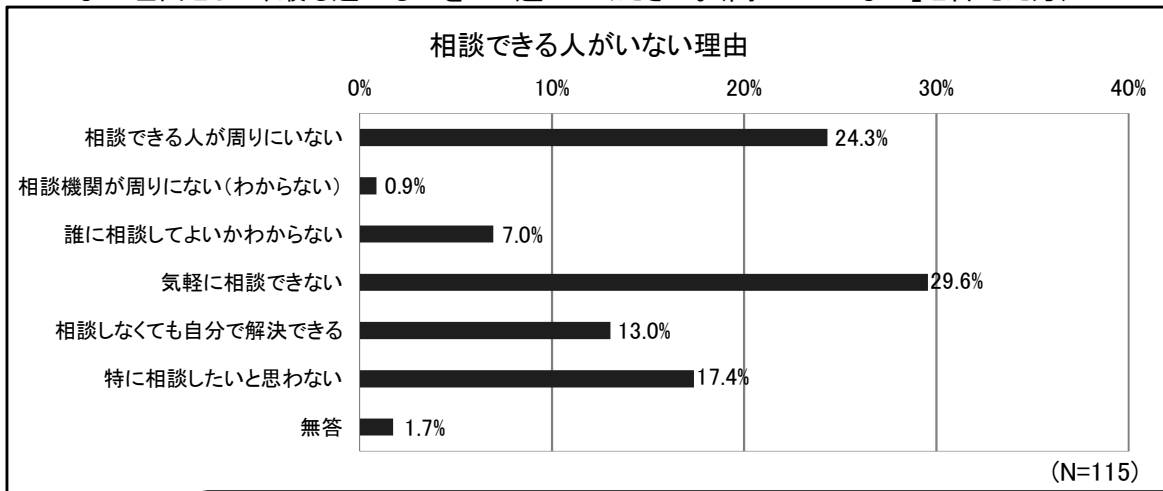
・子供の学年が上がるにつれて、「友人・知人」に相談する割合が高くなっている。悩みを相談できる友達づくりが大切になると思われる。
 ・園の先生に相談する割合は小中学校よりも高い。園の先生は、保護者と顔を合わせる機会が多く、また、発達の個人差の大きい幼児の成長をよく捉えていることから相談しやすいと考えられる。

<相談者の立場 × 悩みや不安の有無>



・「悩みや不安がよくある」保護者は、そうでない保護者に比べ、医師や相談員などの専門家にも相談するケースが多い。

問23 いない理由として、最も近いものを1つ選んでください。(問19で「いない」と答えた方)



・相談できる人がいない理由の上位は、「気軽に相談できない」、「相談できる人が周りにいない」である。お互いに気軽に相談し合える保護者同士の関係が子育ての悩みの相談に大きな役割を果たしていると考えられる。